LIGHTS ON CHILDREN

特定非営利活動法人 ライツオン・チルドレン

アニュアルレポート

2022-2023（令和４年度）

社会的養護とライツオン・チルドレン

特定非営利活動法人ライツオン・チルドレンは、2014 年に設立した NPO 法人です。私たちが支援するのは、「社会的養護」のもとで暮らす子どもや、社会的養護のもとで暮らした経験がある出身者です。必要に応じて、社会的養護の施設・機関やその職員の方々と連携して、活動を子ども・出身者に届けています。

社会的養護（または社会的養育）は児童福祉の一部で、保護者のいない子どもや虐待を受けた子ども、厳しい貧困の状態にある子どもなどを、公的な（国・自治体の）責任で保護・養育することです。保護者のもとでは適切な養育が受けられないと判断された子どもは、児童相談所の権限で児童養護施設・乳児院や里親・ファミリーホームなどに委託されます。
全国の児童養護施設、乳児院、里親とファミリーホームで暮らす子どもは約 33,000 人います。これに加えて、自立援助ホーム、児童心理治療施設、児童自立支援施設で暮らす子どもが約 3,300 人、母子生活支援施設で母親と一緒に暮らす子どもが約 5,300 人います。これらを合わせると、41,700 人あまりの子どもが社会的養護のもとで暮らしています（こども家庭庁「社会的養育の推進に向けて」令和 5 年 4 月）。

多くの施設は民間が運営していますが、子どもの措置（委託）は児童相談所、つまり自治体が行っています。子どもたちの衣食住と教育にかかる主な費用は国と自治体が負担し、基本的に保障されています。

ただ、子どもの福祉のために、公的な制度のもとでなければできないことがある一方で、民間だからこそ発揮できる柔軟さや迅速さもあります。子どもの育ちの機会を保障し、子どもの可能性を拡げるため、ライツオン・チルドレンは公的な制度と民間の資源の間に立って、両者をつなぐ活動に取り組んでいます。様々な立場の人が力を合わせて、子どものためにより良い社会を創っていくことを目指します。

SDGs（持続可能な開発目標）と関連する活動をしています

ご挨拶

理事長
立神 由美子

日頃より、ライツオン・チルドレンの活動にご協力頂いております社会的養護関係者の皆さま、そして私どもの活動を支えて下さる企業や個人の皆さまに深く感謝申し上げます。

2020 年春から、ライツオン・チルドレンの活動はほぼすべてがオンラインとなりましたが、2022 年度は対面での活動が少しずつ増えてきました。8 月には、約 30 か月振りとなる対面でのパソコン寄贈＆講習会を、高知県で開催しました。物理的に距離が近いことで子どもの様子や表情もよく見えて、和やかな雰囲気の中で講習会を実施できました。講習会が終わり、参加した子どもたちが「有難うございましたー！」と嬉しそうにパソコンを持って帰る姿に、そこにいる大人全員がエールを送りました。

一方、1 都 3 県と沖縄県でのパソコン寄贈＆講習会は、引き続きオンラインで行いました。移動の時間がなく参加できるオンラインの講習会は、部活やアルバイトをしている子ども、または沖縄の離島のように移動手段が限られる地域に住む子どもにとって、気軽に参加できるという利点があります。今後も、子どもたちの環境やニーズに沿った支援に取り組んでいきたいと思っています。

2021 年からスタートした、社会的養護の職員の皆さまに向けた「ＩＴセキュリティ / リテラシー研修」では、12 月に事業報告会を開催致しました。当日は、子ども達がスマートフォンやパソコンを通じてインターネットを使うことが当たり前となってきている中で、現場の職員の皆さまが「『施設で暮らす子ども』のネットとの付き合い方」に苦労されている現状なども共有させて頂きました。

インターネットに接続できるデバイス（道具）は大変便利で、もはや私たちの生活には必要不可欠なものになってきました。しかしながら、道具を「使う」のではなく「操る」には訓練が必要です。その道具が、自分や他人を危険にさらす可能性があるのであれば、まずは学習し、自分の練度に合わせた使い方を構築していかなければなりません。自転車や自動車とまったく同じです。とても便利で生活に欠かせない物であるなら、尚更、生活の中で小さいうちから大人に使い方を学ぶことが必要だと私たちは考えています。

コロナ禍で一気に拡大したオンラインサービスやコミュニケーションの手段は、今後もますます進化していくでしょう。こうしたデジタル化は私たちの生活に大きな影響を及ぼしており、子どもたちが時代の波に取り残されないようにサポートすることは、これからますます重要になってくると思います。ＩＣＴ・デジタルに関して、私たちは社会的養護ならではの切り口で課題を整理し、理解を深め、最終的に子どもの最善の利益になるような取り組みを進めて参ります。

こうしたライツオン・チルドレンのすべての活動は、個人の方や企業からの寄付金、使用済みデバイスの寄付などを通じて成り立っております。今後も皆さまのお力添え賜りますよう、引き続き宜しくお願い申し上げます。

法人概要

名称

特定非営利活動法人ライツオン・チルドレン / NPO Lights On Children

設立

2014 年 5 月（法人格取得）

所在地

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 30-12 マイア渋谷桜丘 201

役員

理事長（法人代表）

立神 由美子　児童養護施設れんげ学園 統括学園長秘書・広報担当

理事

大坂 太一　児童養護施設 施設長 / 児童家庭支援センター センター長

伊丹 桂　母子生活支援施設ベタニヤホーム 施設長

監事

野口 五丈　公認会計士（リライル会計事務所 代表）

2023 年 7 月 23 日現在

沿革

2014 年　任意団体として設立した後、特定非営利活動法人の法人格を取得
子どもにパソコンと講習会を提供する「e2 プロジェクト」開始

2015 年　子どもに職業体験を通年で提供する「ジョブリハ」開始

2018 年　情報発信ウェブサイト「社会で子育てドットコム」開設

2020 年　高知県内に向けて「パソコン寄贈＆講習会」提供開始
新型コロナ緊急対応として、1 都 3 県の児童養護施設等にパソコンやマスクを多数寄贈

2021 年　「e2 プロジェクト」を再編、1 都 3 県に向けて「パソコン寄贈＆オンライン講習会」提供開始
東京都内に向けて「社会的養護職員のためのＩＴセキュリティ / リテラシー研修」提供開始

2022 年　沖縄県内に向けて「パソコン寄贈＆オンライン講習会」提供開始

2023 年　パソコンを使って遊ぶプログラム「パソつか」提供開始

主な事業

子ども・出身者に向けた活動

児童養護施設や里親などの社会的養護のもとで暮らす中高生や出身者に向けて、パソコン寄贈や学びプログラムを実施しています。

パソコン寄贈&講習会

社会的養護の施設職員に向けた活動

社会的養護の施設職員に向けて、ＩＴセキュリティ / リテラシーの研修を実施しています。

社会的養護職員のためのＩＴセキュリティ / リテラシー研修

企業などとの協働

企業が社会的養護の現場のニーズをとらえた社会貢献活動ができるよう、寄付のコーディネートなどを行っています。また、使用済みデバイスを寄付して頂くことで、ライツオン・チルドレンの活動を支えて頂いています。

企業内セミナー

社会的養護について広く発信する活動

社会的養護や関連トピックに関する情報発信、理解促進の活動を行います。

社会で子育てドットコム

2022 年度　子ども・出身者に向けた活動

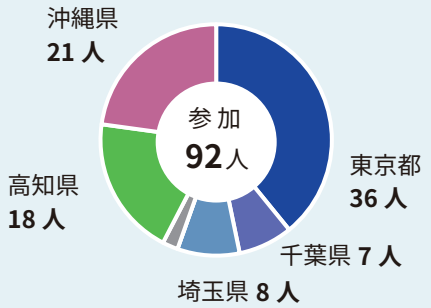
パソコン寄贈＆オンライン講習会

「パソコン寄贈＆オンライン講習会」のプロジェクトでは、社会的養護のもとで暮らす高校生や社会的養護の出身者の方を対象に、ノートパソコンと USB マウスなどの付属品をプレゼントするとともに、3 時間の講習会を無料で提供しています。
ノートパソコンは再生品（使用済みパソコンを工場にて部品交換・修理し、品質チェックを通ったもの）で、ウェブカメラを内蔵したものを 1 人 1 台ずつお届けしています。

講習会では基本的な IT セキュリティとリテラシーの講義と、オフィスソフトの操作実技を行っています。

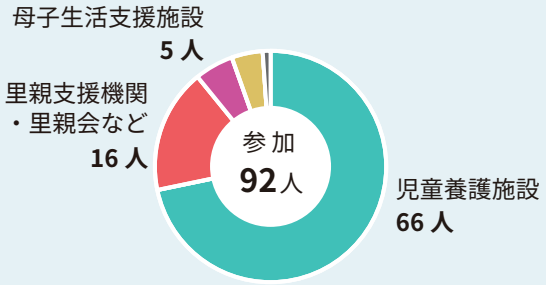
2022 年度は、東京・千葉・埼玉・高知・沖縄の 1 都 4 県で、合計 92 人の方にノートパソコンと講習会をお届けしました。2022 年度から対面での開催を高知県で再開し、「パソコン寄贈＆講習会」として実施しています。また、対象地域によって講習会の内容にバリエーションが生まれています。（詳細は 6 ～ 7 ページ）

都道府県別の参加者数（パソコンの発送先）



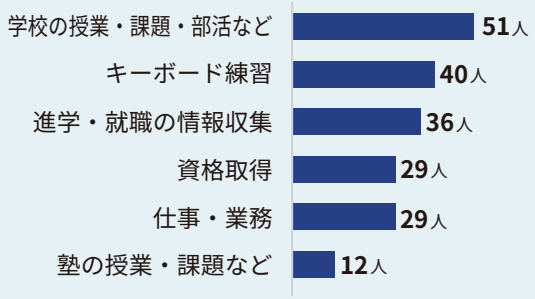
「その他」2 人（都外施設など）

施設種別の参加者数



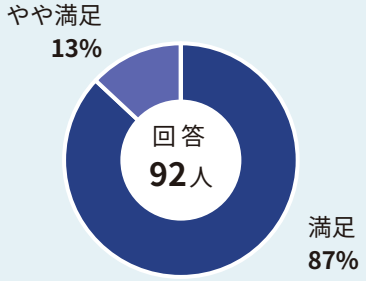
「自立援助ホーム」4 人、「社会的養護自立支援事業」1 人

今後、パソコンを何に使う予定？（複数選択可）



「その他」3 人、「あてはまるものはない」5 人　回答者 92 人

今回のイベント全体の満足度を教えてください



「普通」0%、「やや不満」0%、「不満」0%

＜東京・千葉・埼玉・神奈川の 1 都 3 県向け＞

オンライン開催、8 回実施、53 人参加

2022 年度は、東京・千葉・埼玉・神奈川の 1 都 3 県を対象に、施設や里親支援機関・里親会などから参加申込を受け付けました。

1 都 3 県向けの実施費用は、企業・個人の皆様からの寄付金を充てさせて頂いています。

講習会当日はビデオ会議（Zoom）を使って、IT セキュリティ / リテラシーの講義を受けて頂き、さらに Google シートを使った表計算の実技に取り組んで頂きました。

申込数の推移をもとに、2021 年と比べてニーズが低下してきたと判断したため、2022 年夏以降は開催ペースを「毎月 1 回」から「隔月で 1 回」に変更させて頂きました。

学校の授業で学んだこと以外にもたくさんのことを学べたから、学校の授業でもたくさん活かしたい。

——参加者・17 歳

自分の力でパソコンを操作できたこと、自分用のパソコンがもらえたことがよかったです。講習会を開いてくれてありがとうございました。

——参加者・16 歳

＜沖縄県向け＞

オンライン開催、4 回実施、21 人参加

沖縄県内の児童養護施設や里親家庭、自立援助ホームで暮らす高校 3 年生を対象に実施しました。実施費用にキャピタル・グループ様の寄付金を充てさせて頂きました。

当日は、沖縄の各施設・里親宅と、東京のライツオン・チルドレンをビデオ会議でつなぎ、3 時間の講習会を行いました。

講習会では、ネット回線の契約に関するレクチャーや IT セキュリティ / リテラシーなどの講義をしたほか、Microsoft PowerPoint を使ったスライド作成とプレゼンテーションを行いました。

参加者がプレゼンテーションを行う時は、支援企業のキャピタル・グループ様の東京のオフィスと講習会をビデオ会議でつなぎ、社員のボランティアの方にプレゼンテーションの聴き手として参加して頂きました。

プレゼンテーションでは、「警察官になりたい」「スペインに行ってみたい」「ゲームの大会に出たい」など、ひとりひとりが自分の夢を発表してくれて、大変盛り上がりました。聴き手の皆様には質疑応答を通して、参加者それぞれの夢を応援して頂きました。

自分の好きなゲームについてスタッフの人と語れて楽しかった

——参加者・17 歳

大学に入学したら、勉強、部活、アルバイトを両立して頑張っていきます。頂いたパソコンは大学の授業などで活用させて頂きます。

——参加者・高校3年生

＜高知県向け＞

対面開催、3 回実施、18 人参加

2022 年 8 月と 11 月に高知県を訪れ、新型コロナウイルスの感染防止策を講じたうえで、2020 年 2 月以来となる対面での講習会を実施しました。

8 月の 1 回は、県内の里子の皆様を対象とし、5 人が参加しました。11 月の 2 回は、県内の児童養護施設等に入所する方々を対象とし、13 人が参加しました。それぞれ、高知県の社会的養護自立支援事業「おひさま」様、「にじいろステーション」様と共催し、現地窓口としてご尽力頂きました。実施費用に日本 HP 様の寄付金を充てさせて頂きました。

3 時間の講習会では、IT セキュリティ / リテラシーの講義のほか、ビデオ会議（Zoom）の体験や、Microsoft Office の実技操作を行いました。8 月の回では、「自分の好きなもの」を紹介する記事の作成に取り組み、別室から Zoom を使ってオンラインで発表をしました。11 月の回では、Microsoft Word を使ったチラシ作成や Excel を使った家計簿の作成に取り組みました。

講習会後のアンケートでは、参加者 14 名が「対面での開催が良い」と答えていました（他 4 名は「どちらともいえない」）。子どものすぐそばで、表情や雰囲気を見ながら進められる対面での講習会の意義を、改めて感じることができました。

パソコン講習会終了後、1 人の里子さんから、集合写真をもらえないですか ? との問い合わせがありました。その子にとって、みんなでやった講習会が、この夏の思い出になった、ということだと思います。
頑張りをほめてもらえて嬉しそうにしている表情は私たちにとっても、大変喜びでありました。

——おひさま スタッフ

ワードやエクセルの課題をしている時に一緒にやってくださったのでとても楽しかったです。

——参加者・18 歳

Excel が全く分からなかったけど、優しくずっとついて教えてくださって本当に助かりました。

——参加者・20 歳

後に活かしていきたい講習内容でとてもありがたく感じました。

——参加者・18 歳

約 3 年ぶりの対面での開催ということで少し不安はありましたが、ライツオン・チルドレンの皆さまのおかげで、とても和やかな雰囲気の講習会となりました。講習会を通じて参加者と色々なお話しができる機会を頂き、とても有意義な時間となりました。

——にじいろステーション スタッフ

ジョブリハ　プログラミングの仕事

2022 年度は、「プログラミングの仕事」をテーマに、5月から8月まで4回のプログラムをビデオ会議を使って実施しました。
東京・埼玉などの 5 か所の児童養護施設から、9 人の中高生が参加してくれました。
参加した子どもたちにはプログラミング用にノートパソコンをプレゼントし、ゲーム制作に取り組みました。

このプロジェクトは、一般社団法人コトの共創ラボ 様と個人の講師（ボランティア）の皆様にご協力頂いて実施しました。

「ジョブリハ」は、2022 年度をもって休止とさせて頂きます。

パソつか

子どもたちが歩んでいく未来において、「デジタル」の比重はこれまでよりも大きなものになると私たちは考えています。デジタルの入り口としてはスマートフォンとゲーム機が子どもの身近にありますが、パソコンを使えるようになると、「作る・発信する」の範囲がより一層深く、広いものになります。

法人設立以来続けてきたパソコン寄贈＆講習会の取り組みの中で、「高校生よりもっと早くから、デジタルやネットで何かを作る機会を用意したほうがよいのではないか」との考えを持つようになり、より低年齢の児童も参加できるプログラムの必要性を意識するようになりました。

こうした考えから、「パソつか」（パソコンをつかってつくろう）という新プロジェクトがスタートしました。令和 4 年度 2 月に沖縄県の児童養護施設 2 か所で体験会（プレイベント）を実施し、入所児童と一緒にパソコンでプログラミングや動画編集を体験しました。対象は小学校低学年から高校生までですが、実際には参加者の大半を小学生が占めています。子どもたちの生活の場である施設に私たちがお邪魔してプログラムを提供するのは、ライツオン・チルドレンにとって新しい試みです。これまでの「講習会」と比べて、より「遊び」と「表現」に重点を置いています。

「パソつか」は、2023 年度から本格的に始動します。

2022 年度　社会的養護の施設職員に向けた活動

社会的養護職員のためのＩＴセキュリティ / リテラシー研修

ライツオン・チルドレンの「社会的養護職員に向けた IT セキュリティ / リテラシー研修」プロジェクトは、2022 年 4 月～ 2023 年 3 月の間に、16 施設で合計 19 回の研修をビデオ会議で実施し、延べ約 200 人の職員の方に参加して頂きました。16 施設の内訳は児童養護施設 10 か所、母子生活支援施設 4 か所、自立援助ホーム 2 か所でした。

このプロジェクトでは、子どものケアに関わる職員の皆さんに知っておいてほしいこと、考えてほしいことをまとめた「ユーザーの安心・安全」編と、組織として取り組むべきことをまとめた「組織の情報セキュリティ」編の２つの研修を用意し、東京の社会的養護施設の職員の皆様に向けてご提供してきました。子どものデジタル利用の機会の確保と、安全・安心のバランスを図ることを目指しました。

施設で児童のＩＴ活用を広げたり、ＩＴの濫用を防止したりするうえで、「ユーザーの安心・安全編」は役立ちましたか？

回答 **139** 人

63%　35%

「どちらともえいえない」2%、「どちらかというと役立たなかった」0%、「とても役立たなかった」0%

施設で職員の IT セキュリティ対策や IT リテラシーを向上するうえで、「組織の情報セキュリティ編」は役立ちましたか？

回答 **62** 人

47%　50%

「どちらともいえない」3%、「役立たなかった」「とても役立たなかった」各 0%

2022 年 12 月 15 日には、渋谷のヒカリエカンファレンスにて、このプロジェクトの報告会を実施しました。当日は、自治体、社会的養護施設、支援企業などさまざまな分野の方にお集まり頂きました。（新型コロナウイルスの感染拡大に配慮し、少人数の招待制とさせて頂きました。）このプロジェクトを立ち上げた経緯や、今後の方向性についてご説明するとともに、社会的養護施設での ICT 対応のこれからのあり方について登壇者が様々な観点から議論しました（右写真）。

このプロジェクトは、公益財団法人東京都福祉保健財団様の「子供が輝く東京・応援」事業による助成（2020 年 4 月～ 2023 年 3 月）を受けて実施してきました。

少しずつ子どもの経験として取り入れることを増やし、大きな失敗になる前に小さな失敗をできるようにしたいと思った。

――児童養護施設 職員

撮影 LIFE.14

2022 年度　企業などとの協働

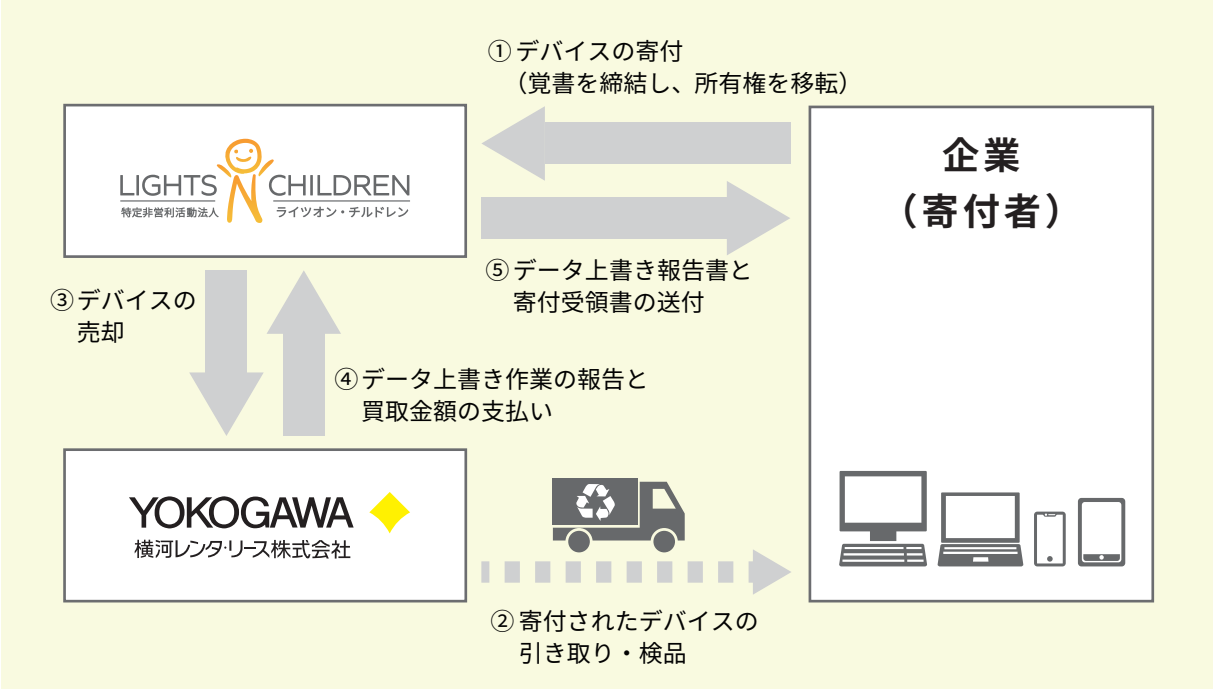
ライツオン・チルドレンへの使用済みデバイスの寄付

ライツオン・チルドレンでは、企業などから、使用済みのパソコン、タブレット、スマートフォンといった情報端末の寄付を受け付けています。ご寄付頂いた情報端末は再生事業者が回収して検品・データ上書き作業を実施し、リユースします。再生事業者が情報端末を買い取ることでライツオン・チルドレンは収入を得て、活動資金とさせて頂きます。さらに、廃棄物削減による環境負荷の軽減にもつながります。
2022 年度は全国から 25 社にご参画頂き、ライツオン・チルドレンの活動を支えて頂きました。

撮影 LIFE.14

2022 年 7 月から、再生事業者が横河レンタ・リース株式会社様に変更となりました。今後も引き続きすべてのメーカーの製品を対象に、使用済みの情報端末のご寄付を募っております。詳細は、ライツオン・チルドレンのウェブサイトよりお問い合わせください。

SDGs（持続可能な開発目標）と関連する活動をしています



（この取り組みは、ご寄付頂いたデバイスがライツオン・チルドレンを通じて子どもや児童福祉施設などの手に渡るしくみではありません。ライツオン・チルドレンから子ども・施設などに寄贈する再生パソコンは、スペック等の要件に沿って機種を選定し、横河レンタ・リース様から購入しています。）

災害備蓄品寄付プロジェクト

ライツオン・チルドレンは、2021 年からドイツ銀行グループ様、相模女子大学子ども教育学科のボランティアグループ「どれみんみん♪」の皆様と協働し、防災グッズを仕分けして児童福祉施設などへ届けるプロジェクトに取り組んできました。

2021 年春、ドイツ銀行グループ様の災害備蓄品の入れ替えに伴い発生した大量の未使用の防災グッズを一旦全て引き取り、「どれみんみん♪」の皆様に検品・仕分け、リュックに詰める作業を引き受けて頂きました。ライツオン・チルドレンは 3 者間の連絡・調整やイベントの企画運営を担当させて頂きました。

「どれみんみん♪」の皆様と顧問の中島健一朗様（相模女子大学 学芸学部 子ども教育学科 准教授）に 14 種類のグッズを防災リュックに詰める作業を進めて頂き、2022 年 6 月までに、防災リュックが 260 個完成しました。この間、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、皆様が集まって作業することが思うようにできなかったり、イベントの延期を繰り返したりして、長い期間がかかってしまいました。

この防災リュックの寄付先のひとつとして、東京東部の 8 つの母子生活支援施設で作る「江東五区母子生活支援施設防災連絡協議会」様を選ばせて頂きました。
6 月に、協議会事務局が置かれている母子生活支援施設ベタニヤホーム様のホールにて 3 者を集めたイベントを行いました（右写真）。各施設長から施設や防災についてお話を伺い、「どれみんみん♪」メンバーから施設へと防災リュックを手渡しました。
防災リュックはその後、協議会の 8 つの施設に入所・退所された母子世帯に配布されたほか、施設が行っているフードパントリーなどの地域向け食支援を通じて活用されました。

このプロジェクトは、物品・食品の有効活用と、学生の皆様のボランティア経験や学びの機会、そして子育て世帯への支援を、ひとつのストーリーでつなぐ形となりました。

食料品の寄付

ドイツ銀行グループ様の社会貢献活動の一環で、5 つの母子生活支援施設に入所する 67 世帯に向けて調味料などの食料品をご寄付頂くことになり、ライツオン・チルドレンが連絡・調整を担当させて頂きました。
2022 年後半は物価上昇による家計への影響が懸念される時期でした。この寄付では、特に値上げが顕著でありながらも、日々の生活で欠かすことのできない調味料や賞味期限が長い食料品などを中心に 15 品目を選び、お申し込みがあった母子生活支援施設に入所する世帯分をご用意して、プレゼントしました。
少しでも生活の足しにして頂き、お子さんと楽しい年末年始を過ごしてほしいとの願いを込めました。

ちょうど購入しようと思っていた物ばかりだったので大変助かりました。
特に小さい子供がいるのでケチャップやマヨネーズをよく使用したり、料理をする時間を確保するのが大変な為、炊き込みご飯の素などもありがたいと感じました。

——母子生活支援施設で暮らす母親

絵画展示

コンビニ ATM の運営会社である株式会社イーネット様では、東京の児童養護施設（4 か所）で暮らす子どもが描いた絵をオフィス（東京都中央区）や会議室に展示して下さっています。また、ライツオン・チルドレンが作成したリーフレットも設置し、社会的養護や児童養護施設に関する理解促進に貢献して頂いています。2 月に改装されたオフィスに、今年は 7 点の絵を展示して下さいました。絵は1年間飾った後、イーネット様からのお礼状とともに、額装した状態で子どもたちにお返ししています。

本人は絵を描いたり、写真を撮ったりすることがとても好きで、絵を飾って頂けることをとても喜んでおりました。人様に認められ、褒めて頂くことは、何よりの自信につながると思います。私共職員もうれしいです。

——児童養護施設 職員

ご支援・ご協力頂いた企業などの皆様

ライツオン・チルドレンが 2022 年度に寄付金、使用済みデバイスの寄付、物品の寄付といった形でご支援・ご協力を頂いた企業などを一部ご紹介します。（五十音順・敬称略）

株式会社アバンセコーポレーション
株式会社イーネット
SAP ジャパン株式会社
株式会社エデュケーショナルネットワーク
カールツァイス株式会社
花王グループカスタマーマーケティング株式会社
キャピタル・グループ
株式会社 CureApp
グランド ハイアット 東京
クリックテック・ジャパン株式会社
一般社団法人コトの共創ラボ
参天製薬株式会社
株式会社 JVC ケンウッド
株式会社 TAKISAWA
株式会社ティア
ディー・エイチ・エル・ジャパン株式会社
ディ・ポップスグループ
ドイツ銀行グループ
東京インキ株式会社
株式会社日本 HP
株式会社 BS 朝日
不二空機株式会社
ブラックロック・ジャパン株式会社
Freshfields Bruckhaus Deringer
ホワイト & ケース法律事務所
　ホワイト & ケース外国法事務弁護士事務所（外国法共同事業）
美和ロック株式会社
横河レンタ・リース株式会社
和田精密歯研株式会社

会計報告

ライツオン・チルドレンの活動は、ご賛同頂いた企業・個人の皆様からの寄付金と民間助成金によって成り立っています。

活動計算書

2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日
単位：円

Ⅰ. 経常収益	
1. 受取会費	35,000
2. 受取寄付金	32,577,202
3. 受取助成金	3,194,440
4. その他収益	24,458
経常収益計	35,831,100
Ⅱ. 経常費用	
1. 事業費	24,705,387
（うち人件費	12,090,330）
2. 管理費	5,002,010
（うち人件費	3,368,760）
経常費用計	29,707,397
税引前当期正味財産増減額	6,123,703
法人税、住民税及び事業税	0

貸借対照表

2023 年 3 月 31 日現在
単位：円

Ⅰ. 資産の部	
1. 流動資産	53,129,533
2. 固定資産	
（1）有形固定資産	89,218
（2）投資その他の資産	18,347,333
資産合計	71,566,084
Ⅱ. 負債の部	
1. 流動負債	2,598,736
2. 固定負債	0
負債合計	2,598,736
III. 正味財産の部	
正味財産合計	68,967,348
負債及び正味財産合計	71,566,084

※ 財務諸表は NPO 法人会計基準によって作成しています。

※ 詳細な財務諸表、事業報告書は、ライツオン・チルドレンのウェブサイトにてご覧いただけます。
https://lightson-children.com/about/financial-statement

特定非営利活動法人ライツオン・チルドレン アニュアルレポート 2022-2023（令和 4 年度）

発行者　特定非営利活動法人ライツオン・チルドレン
発行日　2023 年 7 月 25 日

Copyright 2023 特定非営利活動法人ライツオン・チルドレン

SDGs アイコンの掲載について：
The content of this publication has not been approved by the United Nations (UN) and does not reflect the views of the UN or its officials or Member States.

パルプ（化学パルプ）100%の用紙を使用して印刷製本しています。

特定非営利活動法人ライツオン・チルドレン
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 30-12 マイア渋谷桜丘 201
Web https://lightson-children.com
Email info@lightson-children.com

表紙画像の一部に生成 AI を使用しました。